

令和元年 8 月 30 日
国立大学法人滋賀大学
学 長 選 考 会 議

平成 30 年度に係る学長の業務執行状況の確認結果について

国立大学法人滋賀大学学長選考会議（以下「学長選考会議」という。）は、「国立大学法人滋賀大学学長選考会議規程」第 3 条第 1 項第 3 号及び「学長の業務執行状況の確認に関する基準」に基づき、学長の業務執行状況の確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

1) 平成 30 年度第 3 回学長選考会議（令和元年 8 月 5 日開催）

次の資料及び学長に対するヒアリングを通じて学長の業務の実績を確認した。

- ・国立大学法人滋賀大学学長選考基準（平成 27 年 7 月 1 日公表）
- ・所信表明書〔位田隆一〕（平成 27 年 10 月 1 日）
- ・平成 30 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（令和元年 6 月）
- ・平成 30 年度 監査報告書（令和元年 6 月 21 日）
- ・平成 30 年度 監査意見書（令和元年 7 月 16 日）
- ・学長業務実績報告〔位田隆一〕（令和元年 8 月 5 日）

2. 確認結果

平成 30 年度に係る位田学長の業務執行状況の確認を行い、同学長がリーダーシップを発揮して学長のイノベーション構想を着実に推進すると共に、全教職員と面談して意思疎通を図り、積極的に学内外への情報発信に務めて大学のブランディングを向上させるなどの大学運営の実績が高く評価された。また、データサイエンス学部の発展と充実、文理融合型大学を指向したカリキュラム改革、受験生の大幅な増加、外部資金の飛躍的増加、グローバル化や企業・自治体等との連携強化、学長裁量経費の戦略的配分による研究支援充実などが特筆すべき実績として評価された。学長選考会議は、学長の業務実績報告およびその後の質疑応答の結果並びに監事の意見を踏まえ、平成 30 年度における学長の業務は適切に執行されていると判断する。

なお、今後とも学部とのコミュニケーションを密にし、課題解決に向けた合意形成を一層進めることを期待したい。

以 上